

こたつくん

市川 宣子

あつくんが保育園にでかけたあとのことです。こたつの上には、あつくんがかいたパパの絵が、のったままでした。

そこへ、ねこのみーが、やってきました。

「おい、ねこ。だいたい絵をふむなよ」

こたつが注意すると、みーは、ふん、と、はなをならしました。

「なんだい、えらそうに。こたつなんて、すわってばかりのくせにさ」



こたつは、中がぼつと赤くなつたようでしたが、だまっていた。みーは調子にのって、「だいたいその足なんのためにあるのさ。ぼくとおなじ四本もあるのに」と、自分の足をあげてみせました。す

るとどうでしょう、こたつは、ひよひよい。じゅんばんに足をあげ、どん、どん、と、ふみならしてみせたのです。「わわわ。な、なんだよ。そんなこと、あつくんの前ではしたことないだろ」

みーはびっくり、窓をあけてにげしました。「もちろん、あつくんにはないしよだぞ」

こたつは窓をこえて、のしのし、おいけてきました。外は北風です。ぴゅうう、あつというまにパパの絵はもつていかれてしまいました。

「あ、しまった」

「まてまて」

パパの絵は空高くひらひらとんでいつて……ぼく！電線のカラスがくわえました。

「かえせよ、あつくんがパパにあげる絵だぞ」

みーがいうと、カラスは絵をくわえたまま、もごもごいいかえました。

「ただではやだね。かわりに、なにくれる？」

すると、こたつがちらり、ふとんをめくってみせました。

「ここで、ぽかぽかあたたまらせてやろう」

「ふうん、そんならまあいい、かあ！」

さむがりカラスがくちばしをあげたとたん。ぴゅうう、北風がまた絵を横どりしていきました。

みんなで こたつくん さいこうさ

みーとこたつは、もううれしくって楽しくって。遊びすぎて、帰りは大あわてだったんですって。その日の夜、こたつにどんぐりが「こ入っていたのは、あれはきつと……ね。」

(おしまい)

「あ、しまった」

「まてまて」

「かあかあ」

三人でおいかけていくと……ぱし！ 林のかしの木が、枝をのばしてつかまえてくれました。

「すてきな絵。わたしのかざりにしたいな」

かしの木は、枝のさきで絵をひらひらさせました。

「だめだめ、あつくんがパパにあげる絵なんです」

「かわりに、ここであたたまらせてあげるから」

みーが、こたつのふとんをめくってみせると、

「あははは。わたしには小さすぎるなあ」

かしの木は大笑い。でも、

「それなら、わたしのこどもたちを入れてあげてよ」

ぱらぱら、どんぐりをおとしてきたのです。

パパの絵は、りすがもつておりてきてくれました。北風はくやしがつて、ぴいふう、ないたけれど、こたつはもう、しっかり絵をおなかくくして、わたしませんでした。

ころころどんぐりたちと、からすみりすも、小鳥やたぬきやきつねまでやってきて、林のみんなで、こたつは満員になりました。

♪ ぽかぽか こたつくん あったかい

